



至誠会

廣部 真造 議員

**問** 第2次高島市総合計画の前期基本計画の検証評価や2期8年の結果を踏まえ、今後の施策をどのような判断で展開されていくのか。

**答** 市長  
市の最上位計画であります第2次高島市総合計画は、社会情勢の変化や新たな行政課題に対応するため、令和4年度からの5年間で計画期間とする後期基本計画を、今年度中に策定したいと考えています。まちづくりの目標は、地域に住む人々がより豊かさや安心を感じながら、高島市に住み続けたいと思っただけ

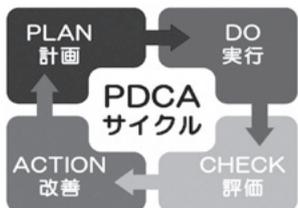
### 今後4年間の行政運営の判断基準について

**問** 第2次高島市総合計画前期計画の検証評価を踏まえた今後4年間の行政運営の判断基準は

**答** 市政改革を継続し、総合的な観点から政策判断をします。

ることに他ならないと考えており、計画の策定にあたりましては、5年前と現在で、市の各施策に対する市民の方の満足度がどのように変化しているかを把握し、その結果を今後の施策検討の一つの判断指標としたところです。

一方、事業の優先順位や判断基準の考え方については、首長としての総合的な政策判断はもとより、市の各種事業について、成果等を客



観的に評価、分析し、改善すべき点は改善していくというPDCAサイクルによる行政評価を行うことが重要であり、そうしたことに一層の意を用いて市政運営にあたっております。

**問** 社会情勢に応じた柔軟な体制や対応はできているのか。

**答** 市長

一つ一つの課題に対してどのように判断すれば将来に禍根を残さず、健全化につながれるかというところを、職員と議論を重ねて、個々に政策判断をしながらここまで来たところであり、今後も持続可能なまちづくりに向けて責任がもてる判断をしていきたいと考えています。

コロナ禍におけるこれからの企業誘致、また、新たな環境整備の切り口についてどう考えていますか。

**問** コロナ禍におけるこれからの企業誘致、また、新たな環境整備の切り口についてどう考えていますか。

**答** 市長

コロナ禍において、社会の構造や一般の方々の生活スタイルも変容せざるを得ない状況の中で、リモートやテレワーク、ワーケーションといった言葉が叫ばれるようになってきています。高島には豊かな自然があり、歴史、文化があり、様々な景観があり、そして人としての生活に癒しをもたらせるような生活環境を提供できるといふ大きな強みがあります。そういうことを前面に押し出しながら、関係人口や交流人口、その先の定住人口の増加に繋げていければと考えています。